

2015年の初夏に訪れたモンゴルの見聞記です。

日本から5時間半、ミアット・モンゴル航空というボーイング737で首都ウランバートルにつきました。驚いたのはこの国際空港は岡山空港の半分ほどしかありませんでした。こんな田舎風の粗末な空港は初めてです。ところがウランバートルは写真のように想像を超える近代的な都市でした。



国土は日本の4倍、人口300万のうち約40%が首都に住んでいます。国の北東には大草原、北西にはユキヒョウが住むアルタイ山脈、南西には広大なゴビ砂漠が広がる国です。一見すれば砂漠に築かれた都市です。町には驚くなかれ、ほとんどが日本車、白線が薄れた広い車道(写真)を乱暴に飛ばしています。プリウスは岡山より多いのにびっくりしました。車は、日本とは逆の右側通行ですが、プリウスのほとんどは右側ハンドルでした。聞けばみんな中古車で、輸入したままの車だから当然でした。町で一番大きいデパートへ行きました。1階のスーパーは日本と同様、なんでもあります。かご(写真)の下にはコマがついており、そのまま引きずります。便利ですが、レジでは品物を全部、勘定台に上げて並べなければいけません。もともと遊牧の国ですから、羊が主食みたいなものなのでしょう。デパートやスーパーでは、写真のようにぶった切りした肉を売っています。日本のように、発泡スチロールの皿に入れてラップで包んだ生鮮食品はありませんでした。



さて、首都のウランバートルでは指折りの24階建てホテルに4泊しました。驚いたことにトイレはイスラム式です。トイレットペーパーは流さないでかごに入れなければなりません。「こんな近代的なホテル」がと唖然としました。むしろこの国のトイレは、どこに行っても全部同じでした。草原の部は、次の便でお伝えします。

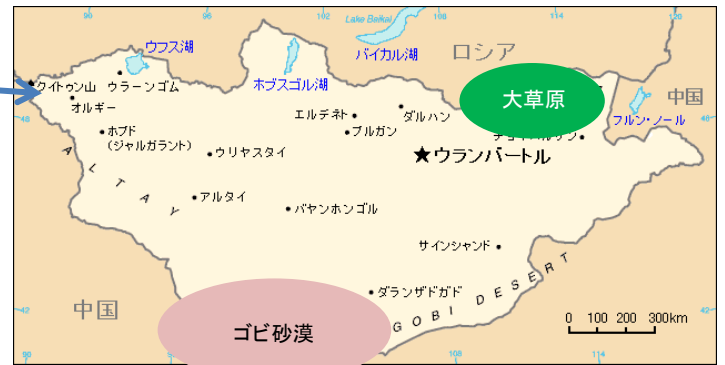
モンゴル事情(草原の部)

昔は蒙古と言われたモンゴル。鎌倉時代(1274)に元(げん)帝国が服従しない日本へ大軍(艦船)



ユキヒョウ

を差し向けましたが、やがて衰微し首都も北京からウランバートルへ移し、近世はロシアの影響圏に入りました。いつの間にかモンゴルは相撲を通じて日本と近くなり、観光客も増えているようです。モンゴルと言えば誰でも大草原を馬で疾駆する遊牧民を連想しますが、首都ウランバートルは近代都市で馬一頭見かけません。遊牧民が生活する大草原は地図のように東北部に広がっています。南は中国に続く大きなゴビ砂漠、西部の山岳地帯は不毛の寒冷地ですが、希少動物ユキヒョウが住んでいます。先日 NHK 特集でユキヒョウに取りつかれた日本のタレントがユキヒョウとの出会いを求めて、何日もかかってやっと巡り会えた記録を放映していましたが、生息数は激減しています。私は滞在中、ウランバートルから貸し切りバスで草原へ出かけました。およそ1時間半、赤土の砂漠をヒュンダイの中古バスで走りました。シートベルトをしろとの指示の意味が分かりました。悪路と粗末なバスのせいで震度7から8の揺れです。シートベルトをしなければ座席から落ちたでしょう。日本の歴史で発音するジンギスカンはこちらでは「チンギスハーン」です。「ハーン」は中東でいう「スルタン」すなわち皇帝を意味します。元寇の役の時のハーンは、チンギスの孫「フビライ」でした。



シートベルトをしろとの指示の意味が分かりました。悪路と粗末なバスのせいで震度7から8の揺れです。シートベルトをしなければ座席から落ちたでしょう。日本の歴史で発音するジンギスカンはこちらでは「チンギスハーン」です。「ハーン」は中東でいう「スルタン」すなわち皇帝を意味します。元寇の役の時のハーンは、チンギスの孫「フビライ」でした。

さて、観光客(外人)のために「13世紀村」がいくつか復元されています。首都から4,50kmの距離には大草原はありません。雨が少なく青草が生えないそうです。政府は、50歳の荒原に駅伝村、文化村、宗教村を作り保存しています。いずれも移動式住居「ゲル」(右)です。中国では「パオ」と言います。ゲルには大小があります。遊牧民の移動住居であるゲルの建築材はラクダで運び、2時間ぐらいで組み立てます。外壁は格子柵を丸く広げ、中央に2本の柱を立て天窓(右下)を作ります。窓はなくても内部が驚くほど明るいです。入口はすべて南向き、入って右側が女性、左側が男性の領域でどこも厳守されています。冬は厳冬なので、外壁は厚さ15ミリほどのフェルト(羊の毛)でぐるっと巻いて、中では乾燥牛糞を燃料にしたストーブを炊いています。

さて、観光客(外人)のために「13世紀村」がいくつか復元されています。首都から4,50kmの距離には大草原はありません。雨が少なく青草が生えないそうです。政府は、50歳の荒原に駅伝村、文化村、宗教村を作り保存しています。いずれも移動式住居「ゲル」(右)です。中国では

「パオ」と言います。ゲルには大小があります。遊牧民の移動住居であるゲルの建築材はラクダで運び、2時間ぐらいで組み立てます。外壁は格子柵を丸く広げ、中央に2本の柱を立て天窓(右下)を作ります。窓はなくても内部が驚くほど明るいです。入口はすべて南向き、入って右側が女性、左側が男性の領域でどこも厳守されています。冬は厳冬なので、外壁は厚さ15ミリほどのフェルト(羊の毛)でぐるっと巻いて、中では乾燥牛糞を燃料にしたストーブを炊いています。

「パオ」と言います。ゲルには大小があります。遊牧民の移動住居であるゲルの建築材はラクダで運び、2時間ぐらいで組み立てます。外壁は格子柵を丸く広げ、中央に2本の柱を立て天窓(右下)を作ります。窓はなくても内部が驚くほど明るいです。入口はすべて南向き、入って右側が女性、左側が男性の領域でどこも厳守されています。冬は厳冬なので、外壁は厚さ15ミリほどのフェルト(羊の毛)でぐるっと巻いて、中では乾燥牛糞を燃料にしたストーブを炊いています。

